

No.819
2025.4.20

発行：男声合唱団 昴
レッスン会場：
大阪市中央区谷町7丁目1-39
谷町第2ビル308号 ねむかホール
連絡先：090-6058-5652(立川)

昴友の会・うたごえ喫茶 第4回 楽しく開催！



昴友の会 第4回うたごえ喫茶

4月6日(日)、ねむかホールで「昴友の会」主催の第4回うたごえ喫茶が開催されました。

オープニングは「春よ来い」、「春が来た」、「春の小川の1番」の3連発でした。次いで「春の小川」と「ちょうちょ」を二つのグループに分けて同時に歌い、最後はぴったり一緒に、一気に盛り上がりました。

前半の最後は、昴の演奏で「LOVE」の4曲を歌い切りました。

後半の司会は向井さんで、曲ごとに簡単な、その曲の由来を説明されました。饒舌な立川さんとトツツとしたしゃべりの向井さん、対照的でよかったです。

後半の昴の演奏は「地底の歌」の序章と2章(千秋さんソロ)そして「人間の歌」でした。前半も後半もお客さんから大きな拍手をいただきました。

この日の参加は、お客さん20人、昴13人、友の会6人、計39人でした。

4月～5月の活動予定 (会議を除く)

- 4/18(金) 17:30 定例レッスン
- 4/20(日) 14:00 星になった昴の仲間を偲ぶ会
- 〃 16:00 定例レッスン
- 5/ 2(金) 13:30 声楽中村教室
- 〃 17:30 定例レッスン
- 5/ 4(日) 14:00 昴友の会例会
- 5/ 6(火) 15:00 T1. 2パートレッスン(時間変更にご注意)
- 5/13(火) 13:30 声楽千秋教室 I (時間変更にご注意)
- 〃 18:00 Br. Bsパートレッスン(時間変更にご注意)
- 5/15(木) 16:30 声楽千秋教室 II
- 5/16(金) 17:30 定例レッスン
- 5/18(日) 14:00 定例レッスン
- 5/31(土) 11:30 大阪母親大会文化行事出演

出演予定

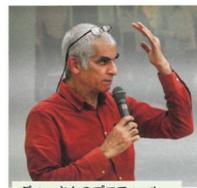
5/31(土) 大阪母親大会 文化行事に出演
クレオ大阪中央 (弁当は各自持参)
11:30~ リハーサル 12:50~13:10 本番
衣装：赤シャツ、9条バッジ
演奏曲：アメイジング・グレイス、このみち、わが母のうた、109台のベビーカー、昴

第69回大阪母親大会

2025年
5月31日(土)

開場 12:00 開会 12:45~16:30
クレオ大阪中央

地下鉄四天王寺前夕陽丘駅下車
1号出口 徒歩3分
大会協力費 1,200円



ダニーさんのプロフィール

1957年イスラエル生まれ。高校卒業後徴兵制によるイスラエル空軍入隊。退役後日本各地をヒッチハイクしながら日本で暮らすように。ご夫婦で埼玉在住。木工家具作家、平和活動家で旺盛に講演を各地で展開中。
ダニーさんは、国を守るため、敵と戦うことを子どものころから教えられてきた。徴兵制も当然のこととして応じた。「退役の旅」で訪れた日本で初めて外からイスラエルを見る。日本国憲法の戦争放棄、9条に衝撃を受け、イスラエルで教えられてきたことは…? と考える。

記念講演 **ダニー・ネフセタイさん**

「世界中にひろめよう憲法9条」

一押し力ではなく話し合いこそが未来を拓く

文化行事 男声合唱団 昴
昴は誕生して25年。反戦・平和の歌・人間の尊厳を守る歌などを歌い続けています。
曲目 「アメイジンググレイス」、「我が母の歌」、「昴」、「地底の歌」など



第69回大阪母親大会はリアルとオンライン併用で行います。(両方とも1200円)

会場は約1000人入場できますが、地域母親連絡会や団体・グループ・個人でのサテライト会場での視聴も可能です。当日受信されるメールアドレスから代表の方がお申し込みください。第1次 4月30日、第2次 5月20日まで

メールアドレス marimofk2010@yahoo.co.jp

主催/第69回大阪母親大会実行委員会 ☎ 06-6768-8946 fax 06-6768-8947
連絡先/大阪市天王寺区東高津町7-11-703 大阪府教育会館内

今年の合唱発表会の曲目は、3月の運営委員会で議論し、第15回コンサートの荒木栄ステージから「どんと来い」「わが母のうた」に決まりました。

それぞれみなさんがよく知っている歌だと思いますが、その歌の背景などを調べてみましたので参考にしてください。

「どんと来い」～歌の背景～

■1959年、熊本で行われた第7回九州のうたごえ祭典は、荒木栄が企画責任者で約6,000人参加。首切り反対闘争の盛り上がりを反映して大合唱となったこの曲は、安保闘争の中で歌われ、全国に広がりました。

■♪～みんな集まれ 腕を組め…。年越し派遣村で歌われた1曲。

1959年、「がんばろう」「地底のうた」等で知られる荒木栄(1924-62)が胃の三分の一を切除した病床で作りました。

三井鉱山が企業再建の名目で数千人の解雇を打ち出したと聞いて「どんと来いだ！」と胸を叩いたという。

同年、熊本開催の九州のうたごえ祭典で、熊本県民謡「おてもやん」のリズムを取入れた朗唱から始まるこの歌は、首切り反対の大合唱となり安保闘争テーマソングのように全国に広がりました。

歌は「明るさと健康さの他に生き生きとした生命の充実感が、歌詞にも旋律にもこもらなければ、その明るさ健康さは浮いてしまう」「苦しみ乗り越え進む大衆の姿を的確に表現する一節、一文句は技巧だけでは生まれない」と荒木自身が綴った課題に応えたものです。

荒木栄が亡くなって数年後、うたごえ新聞の「荒木栄に学ぶ」というシリーズで、荒木栄に関わった人たちが思い出を語っています。関係するところの一部を紹介します。

荒木栄に学ぶ 多泉和人(うたごえ新聞1965.3.1) ▼詩の言葉一つ一つを大切に

彼がガンで死ぬということを知ったとき、私も胃を悪くして、入院を目の前に仕事していた時でした。二ヶ月程の入院予定でしたが、二十九日目に、いてもたってもおれず、九州へ見舞いに行ったのです。六二年九月の初めことです。

彼は自分が死に直面していることを、すでに知っていたのですが、「今年の日本のうたごえ祭典には、ぜひ行きたいなあ」と、にこにこして語りました。私に自分で作ったブドウ酒を出してくれながら、話はもう、同行した森田ヤエ子さんと、仕事のことに移っていました。森田さんの「わが母のうた」の詩について、彼女と論争していたのでした。

彼は詩に大そう神経をつかう人でした。彼自身、以前、短歌をやっていたせいでしょうか、沢山の仲間たちによってうたわれることをいつも念頭において、詩の言葉の一つ一つを吟味し、内容をたんねんに検討して、一語一語ていねいに音符にしてゆくのでした。

私は彼から、どんなに詩の言葉を一つ一つ大切にしなければならぬかを教えられたのです。

(作曲家)尾上和彦。多泉和人は当時のペンネーム。)



長谷 治(うたごえ新聞1965.5.1)

▼安保斗争のさなかに

安保斗争の最中、徹夜で国鉄の拠点職場に座り込みに行った時のことです。小雨がパラついていましたが、数百名の支援の労働者はタキ火を囲み、アコーディオンに合わせて元気に風変わりな歌をうたっていました。

”みんな集まれ腕を組め。炭鉱マンも鉄道員も化学の仲間も、日雇いも…”この時が、僕とうたごえの接触のはじまりです。そのうたが荒木栄の「どんと来い」でした。この夜は、新しい力にふれた気持ちで一心に”みんな集まれ…”を繰り返し、歌いました。”しほんかどもア、わがどんぼっかりしこたまうけてしらんかお…”この個所が覚えにくく、苦勞したことをいまでもよく覚えています。とにかく、調子のよい胸がスカッとする歌だと思ったものです。

(朝日ジャコーラス。「どこまでも幸せ求めて」作詞・作曲)



魚住清文(うたごえ新聞1966.1.15)

■森田ヤエ子が荒木さんのことを話すときによくこういう話を聞かせてくれます。

・森田「荒木さんは三池でどんな仕事をしていますか？」

・荒木「民族の音を創っています。」

■まず「どんと来い」の歌。ヤエさんは「荒木節」といいましたが、最初に聞いた感じでは、むしろ「おてもやん」(熊本民謡)の現代版で、巾広い統一戦線がうたいこんであるのが良いという意見が多かったようです。「おてもやん」が持っている庶民の楽天性が、働く仲間の楽天性として生かされ、出だしが、一人から大勢でうたえるようになっています。

そして囃子ことばの面白さが、歌を誰でも気安く口ずさめるように考えられてあり、しかも「おてもやん」のようにふざけた形での抵抗ではなく正面から攻撃をかけている姿勢の立派なこと。これは荒木さんの人柄といってしまうとそれまでのようですが、三池の労働者が本来持っている労働者の根性といったものが感じられるのです。

(九州青年合唱団)

4月20日(日)に星になった昴の仲間を偲ぶ会が開かれます。亡くなった時の状況を聞くと、“入浴中”が多いのに驚きます。みなさんも、入浴中の事故にはくれぐれもお気を付けください。



『入浴時の救急事故にご注意を』

1. 入浴前に脱衣所や浴室を暖めておく。
2. お湯の温度は41度以下にし、長湯をしない(10分程度を目安にする)。
3. 浴槽から急に立ち上がらない。
4. 食後、飲酒後、医薬品(睡眠導入剤など)服用後の入浴はさける。
5. 入浴前に同居者に一声かける。
6. 同居者は入浴中の高齢者の動向に注意をする。